

- 1 派遣期日 令和5年9月22日（金）
- 2 派遣先 学校名 岩手大学教育学部附属特別支援学校
所在地 岩手県盛岡市東安庭3丁目4-20
<http://www.edu.iwate-u.ac.jp/futoku/>

3 研修内容

（1）視察校における研究への取組

研究主題：情報活用能力の育成を目指した授業づくり

岩手大学教育学部附属特別支援学校では、これまで「授業づくりの視点」として5つの視点に基づいて児童生徒の主体的に活動する姿を目指した授業づくりの実践研究を行ってきた。そして昨年度から「情報活用能力の育成を目指した授業づくり」を主題として研究を進めてきた。これは、現行の学習指導要領において、情報手段の適切な活用を通じ、子どもたちの情報活用能力を育成していくべきことが明記されたことに対応するものである。「授業づくりの実践研究」の蓄積に、情報活用能力の視点やICT活用の視点を取り入れ、児童生徒の情報活用能力の育成と学習活動のより一層の充実に向けた授業改善を図っている。

① 情報活用能力の明確化

学習指導要領に示された情報活用能力の要素は、「基本的な操作」「問題解決・探究における情報活用」「プログラミング」等の様々な要素が複雑に絡み合っていたり、小学校～高等学校の枠組みであったりしている。岩手大学教育学部附属特別支援学校では、知的障害児の認知機能や障害特性を踏まえた体系表例を作成する必要性を感じ、自校の児童生徒の実態に応じ、小学部段階、中学部段階、高等部段階で育成を目指す情報活用能力の検討を行い「情報活用能力段階表例」を作成した。

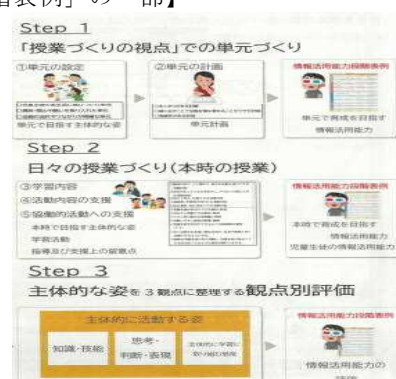


【小学部において育成を目指す情報活用能力】 【「情報活用能力段階表例」の一部】

② 情報活用能力の育成を目指した授業づくり

主体的に活動する姿を実現するために、「授業づくりの視点」をベースに授業づくりを行い、そのプロセスに情報活用能力の視点を位置付けることで、主体的に活動する姿や授業・教科の目標達成という授業そのもののねらいを保ちながら、情報活用能力を育成している。

情報活用能力を位置付ける際には、「情報活用能力段階表例」を活用し、児童生徒の情報活用能力の育成を目指した授業づくりに取り組んでいる。



③ 組織的・計画的な授業づくり

学習の基盤となる情報活用能力は教科横断的な視点で育成していくこととされる。特定の授業だけで育成されるものではなく、一部の教員だけで行うものでもない。授業づくりにおいて、情報活用能力をいつ、どの教科・単元で育成し、どうやって発揮させるかの視点が必要になる。岩手大学教育学部附属特別支援学校では、各授業の中に位置付けて育む内容、計画的に取り組んでいく内容を捉え、それらの関連を図りながら、組織的・計画的に育成することの有効性と継続的な検討を全職員で図っていた。

(2) 視察校における授業の実際

① 小学部つくし組（5、6年）生活単元学習「作って食べよう」

単元で育成を目指す情報活用能力は、「写真、動画、アプリから必要な情報を得ること」「写真やイラストを選択して、感想等を発表すること」「調理の材料、手順、出来栄えについて考えること」「手順通りに調理すること」である。本時では、前時の活動を振り返り、調理の手順を確認する活動が行われていた。前時の活動を振り返る活動では、ロイロノート・スクール（授業支援クラウド）を活用して、一人一人の感想をテレビ画面に映し出し、前時に作った料理についての感想を共有していた。調理の手順を確認する活動では、手順ごとに分けたカードを並べてプログラムを作り、教師が扮するロボットを動かす活動を設定し、全員で楽しみながら調理の手順を確認していた。また、具体的に手順を確認できるよう、ロイロノート・スクールでグループごと手順ごとに分けた動画をつなげる活動も取り入れていた。ロイロノート・スクールの操作が正しくできるように、T2、T3は必要に応じて指さしや声掛けをしながら児童と一緒に取り組んでいた。児童が並べたカードをロボットが実演していくという発想がユニークで、どの児童も意欲的に取り組んでいた。また、本時で目指す情報活用能力の育成のために、カードや写真を使ったアナログ教材とタブレット等のICT機器が授業の中で効果的に使い分けられていた。

② 中学部おもしろ学習2組 国語・数学「みんなでチラシを作ろう～販売会に向けて～」

単元で育成を目指す情報活用能力は、「題材に必要な情報を集めたり、集めた事柄の中から必要なものを選んだりする」「集めた情報を生活と結びつける」である。本時では、写真を手がかりに、身近な人・もの・ことと言葉を結び付けるこれまでの学びを活かして、販売会を知らせるチラシをタブレットで作成し、できたチラシを見せ合う活動が行われていた。写真部分を隠したチラシから、どの製品のチラシなのかをクイズにし、チラシにある言葉の一つ一つ確認したり、日常生活の経験とチラシにある言葉を結び付けたりして、問題解決に取り組んでいた。生徒は集めた情報を整理できるように、ロイロノート・スクールにまとめていたが、ロイロノートを使用した学習活動は普段から行っているので、操作はだいぶ慣れていた。

4 感想

岩手大学教育学部附属特別支援学校では、今回の研究が始まるまでICT機器があまり活用されていなかったり、ICT機器を使用した授業づくりに不安の声が多かったりしたという実態があったという。しかし、情報活用能力を育成していくことが学習指導要領に明記され、ICT機器等を適切に活用し、情報活用能力の育成を図っていくことが求められているようになり、「GIGA スクール構想」のもと、全職員で一丸となってICT活用教育に取り組んできたようだ。そして、研究会が終わったからこれで終わりではなく、今後も情報活用能力段階表例の見直しや組織的・計画的な授業づくりの継続的な検討等の課題解決を図っていくという姿勢が素晴らしいと感じた。ICT活用教育を通して、試行錯誤を繰り返しながらも主体的に活動していく岩手大学附属特別支援学校の児童生徒の姿を目標に、私も次年度から積極的に情報活用能力の視点やICT活用の視点を取り入れた授業づくりに取り組んでいきたい。また、岩手大学教育学部附属特別支援学校の先生方がおっしゃっていた「一人が10やるのではなく、十人が1ずつ持ち寄る」という言葉のように、自分だけでなく、学校全体への働きかけも行っていきたいと思う。